

ウナギ産卵場生態調査

IV. 成魚捕獲海域の海洋構造

岡崎 誠・張 成年・黒木洋明（水研セ中央水研）・田和篤史・望
岡典隆（九大院農）・青山 潤・篠田 章・塚本勝巳（東大海洋研）・
橋本 博（水研セ志布志セ）・神保忠雄（水研セ南伊豆セ）

【目的】ウナギ *Anguilla japonica* 成魚が捕獲された海域はどのような海洋構造であったか示す。

【方法】水産庁調査船開洋丸を用い、平成20年5～6月及び8～9月にマリアナ諸島西方海域において中層トロール曳網前に海洋観測を行った。5～6月は500mまでのCTD観測、8～9月は1000mまでのCTD及びXCTD観測を行った。

【結果】6、8月のウナギ捕獲地点周辺海域は、ともに北赤道海流の影響下にあった。8月の捕獲地点周辺の表面水温は30度、表面塩分は34.5psuであった。表層混合層はあまり発達せず、150～300m附近に水温躍層が見られた。塩分躍層は200～350m附近に位置し、低塩分が特徴である西部北太平洋中央水で占められていた。170mには35psuを越える塩分極大があり、400mに34.3psuの塩分極小が見られた。捕獲水深と推定される200～300mは水温13～21度、塩分34.4～35.0psuに相当した。6月の捕獲地点の海洋構造と比較すると、大きな季節変化はなかったが、150mより浅い表層では6月の方がやや低塩であった。